

# 管理駅配信型 列車接近警報装置

システム紹介

# はじめに 【従来の構成】



従来の列車接近警報装置はスタンドアロンタイプの装置で、列車の通過／停車を識別するためのダイヤ情報などは駅職員の方が入力されていました。

各駅毎にダイヤ情報を入力するという手間がありました。

従来の列車接近警報装置は[こちら！](http://kanno.co.jp/product/detail/34) (<http://kanno.co.jp/product/detail/34>)



# はじめに 【現状の課題】



そして最近では、駅の無人化や委託化により、ダイヤ情報のデータメンテナンスが困難になるという課題がありました。



無人化



無人化



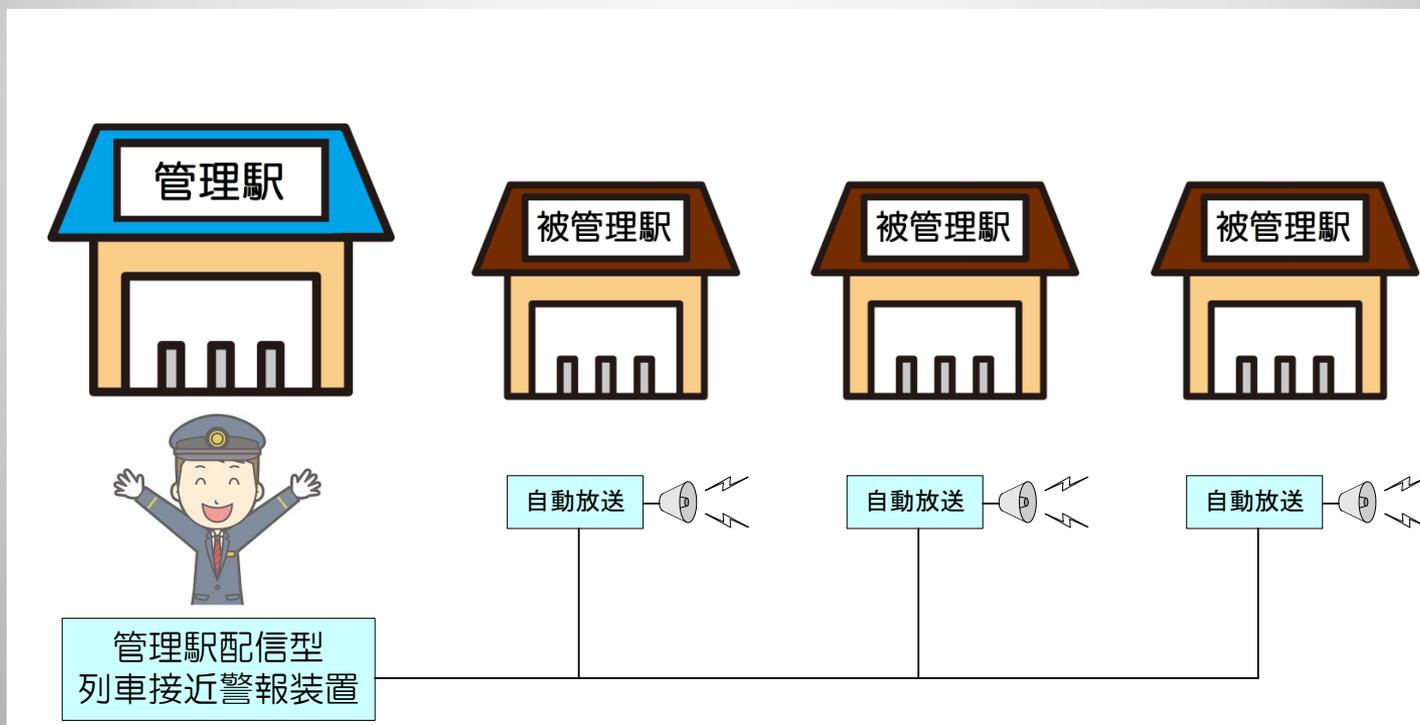
無人化

# はじめに 【提案の構成】



そこで、ダイヤ情報などは管理駅にて一括管理し、無人駅／委託駅でのデータメンテナンスが一切不要なシステムを開発致しました。

その**管理駅配信型の列車接近警報装置**をご紹介します。



# 特徴



## 被管理駅の負荷軽減

- ダイヤ管理を管理駅に集中するため、通常時、ダイヤ乱れ時も被管理駅の操作は必要ありません。よって安心して無人駅、委託駅への設置が行えます。

管理駅では基本ダイヤを作成する必要があります。列番、行き先、列車種別、被管理駅の発車時刻、通過／停車の情報などを入力する必要があります。  
弊社で基本ダイヤの代行入力（有償）も承りますのでご相談ください。

## 詳細放送化

- 従来の通過・停車の放送文に加え、列車種別・発車時刻・行き先を加え、お客様に優しい放送を行います。
- 列車遅延時には遅れ時間をお知らせする遅延案内放送を行います。また遅延案内放送では、列車の在線位置を放送します。
- 列車運休時には運休案内放送を行います。

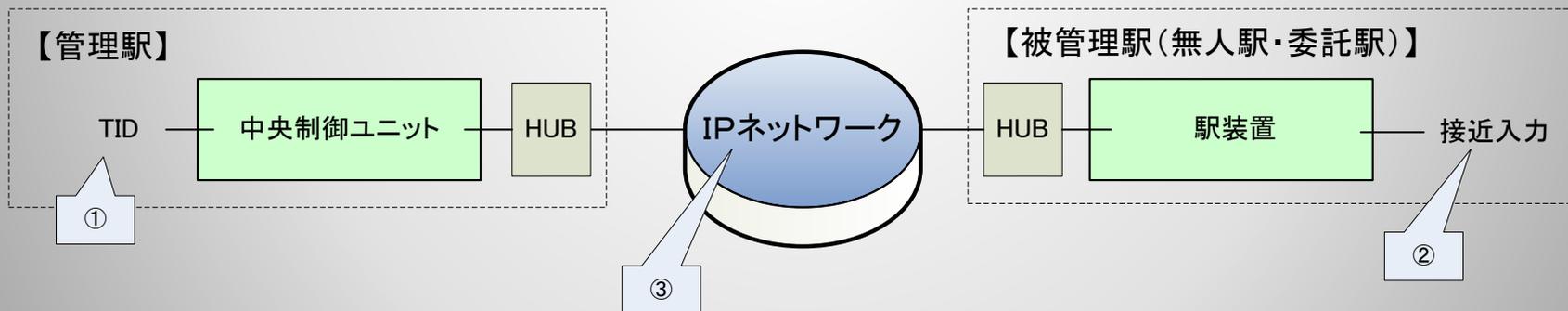
本装置には外部条件として接近信号とは別にTIDの情報が必要です。

# 外部条件



本装置の設置には以下の外部条件が必要です。

- ①管理駅にはTIDの情報が必要です。  
※インタフェースの方式は別途打ち合わせによります。
- ②被管理駅には接近信号が必要です。
- ③管理駅と被管理駅間の通信回線はIPパケットが通る回線が必要です。

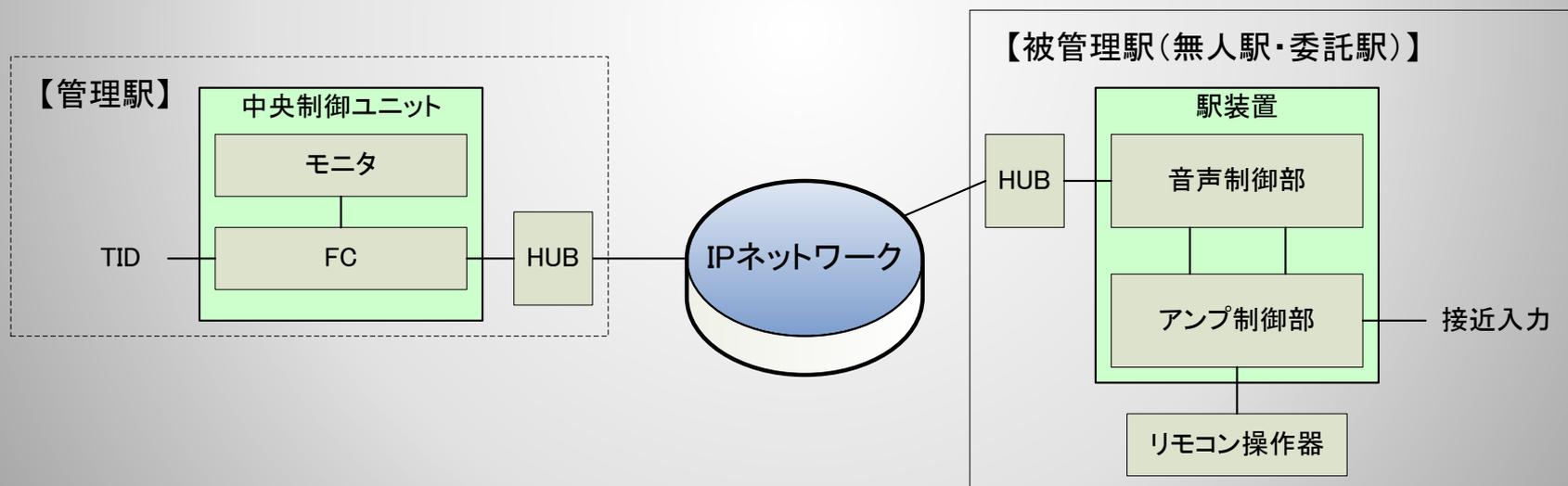


# システム概要



管理駅配信型の装置構成を説明します。

- 管理駅には中央制御ユニットを設置し、TIDと接続を行い、TIDから次進入列車の情報を取得します。また基本ダイヤデータを準備します。
- 被管理駅（無人駅・委託駅）には駅装置を設置し、中央制御ユニットからの情報をもとに自動放送の音声出力を行います。
- 駅装置にはリモコン操作器を接続することができ、マイクでの放送も行えます。



# 機能（放送種別）



放送種別を説明します。自動放送の放送種別は以下の3種類です。

項番	放送種別	内容
1	遅延案内放送	<p>ホームの乗客に対し列車の遅れ時間をお知らせします。</p> <p>放送例) (チャイム) 列車の遅れをお知らせします。 10時15分発、普通列車〇〇行きは途中約10分遅れて△△駅を出発しております。 遅れは変わることがありますので案内放送にご注意ください。</p>
2	接近案内放送	<p>ホームの乗客に対し停車・通過列車のホーム進入を通知し注意を喚起します。</p> <p>放送例) (警告音) 1番のりばに10時15分発、普通列車〇〇行きの到着です。 黄色い線の内側でお待ちください。</p> <p>(警告音) 1番のりばを列車が通過します。黄色い線の内側にお下がりください。</p>
3	運休案内放送	<p>ホームの乗客に対し列車の運休をお知らせします。</p> <p>放送例) (チャイム) 列車の運休をお知らせします。 10時15分発、普通列車〇〇行きは運転をとりやめさせていただきます。 大変ご迷惑をおかけ致します。</p>

# まとめ



今回ご紹介したシステムは標準のシステムになります。  
本システムをベースにカスタマイズも可能です。  
ご興味がございましたら最寄りの営業所までご相談ください。

*INNOVATION*  *TO CONNECT*

“つなぐ”を革新する